

■ JBC レディースクラシック (JpnI) アラカルト (過去全 12 回の分析)

※第 2 回 (平成 24 年)、第 6 回 (平成 28 年) は川崎ダ 1,600m、第 3 回 (平成 25 年)、第 11 回 (令和 3 年) は金沢ダ 1,500m、第 4 回 (平成 26 年)、第 12 回 (令和 4 年) は盛岡ダ 1,800 m、第 8 回 (平成 30 年) は京都ダ 1,800m、第 9 回 (令和元年) は浦和ダ 1,400m で実施
※第 3 回 (平成 25 年) からはダートグレード競走として実施
※記録は令和 5 年 10 月 20 日時点

■ 1 番人気馬の 3 着内率は 9 割超

単勝 1 番人気馬は 4 勝、2 着 3 回、3 着 4 回で、3 着内率が 91.7%、単勝 2 番人気馬は 3 勝、2 着 3 回、3 着 0 回で、3 着内率が 50.0%、単勝 3 番人気馬は 2 勝、2 着 2 回、3 着 2 回で、3 着内率が 50.0%となっている。単勝 1 番人気馬が 4 着以下に敗れたのは、現在のところ第 7 回 (平成 29 年) のみである。

■ 堅い決着となった年が多い

過去 12 回のうち 9 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 6 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 4 回ある。

■ 勝ち馬の大半はこのレースが GI・JpnI 初勝利

JpnI として施行された第 3 回 (平成 25 年) 以降の過去 10 回中 9 回は、GI・JpnI において 1 着となった経験のない馬が優勝を果たしている。既に GI・JpnI で 1 着となった経験があった優勝馬は、第 6 回 (平成 28 年) のホワイトフーガだけだ。

■ 優勝例が比較的多いのは 5 歳勢

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 2 勝、4 歳が 3 勝、5 歳が 6 勝、6 歳が 1 勝となっている。幅広い年齢層から優勝馬が出ているもの、5 歳馬がやや優勢と言えるだろう。

■ 優勝を果たした地方所属馬はララベルだけ

所属別の勝利数を見ると、JRA が 11 勝、地方が 1 勝となっている。地方所属馬の優勝例は、第 7 回（平成 29 年）のララベル（大井）による 1 回のみである。

■ 外国産馬は未勝利

外国産馬は第 1 回（平成 23 年）のラヴェリータ、第 8 回（平成 30 年）のラビットラン、第 10 回（令和 2 年）、第 11 回（令和 3 年）のマドラスチェックがそれぞれ 2 着となっているものの、まだ優勝例はない。

■ ミラクルレジェンドとホワイトフーガが“連覇”を達成

JBC レディスクラシックにおいて複数回の優勝経験があるのは、第 1 回（平成 23 年）と第 2 回（平成 24 年）を制したミラクルレジェンド、第 5 回（平成 27 年）と第 6 回（平成 28 年）を制したホワイトフーガの 2 頭である。なお、いずれも 2 回連続の優勝だ。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「3」

騎手別の勝利数を見ると、岩田康誠騎手が 3 勝で単独トップとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録も「3」

調教師別の勝利数を見ると、藤原英昭調教師が 3 勝で単独トップ。高木登調教師が 2 勝で単独 2 位となっている。

■ 1 枠と 6 枠はまだ優勝例がない

枠番別の勝利数を見ると、2 枠、5 枠、8 枠（各 3 勝）がトップタイとなっている。なお、1 枠と 6 枠は現在のところ未勝利である。また、馬番別の勝利数を見ると、12 番（3 勝）が単独トップ。2 番と 3 番（各 2 勝）が 2 位タイとなっている。ちなみに、未勝利の馬番は 1 番、5 番、7 番、9 番、11 番、13 番、14 番、15 番だ。

<伊吹雅也>